

創価学会の信仰に 功德はありません

◆ 創価学会は日蓮大聖人への信仰を捨てました

日蓮大聖人は、釈尊しやくそんの教えを「月の光」に、大聖人の教えを「太陽の光」たとに譬え、ご自身のことを、末法の人々を救う「本仏」ほんぶつ（根源の仏）であると示されています。

ところが、令和5年に発刊された『創価学会教学要綱』では「釈尊こそがこの娑婆世界しやばの衆生の救済者」きゆうさいしや（要綱28頁）と、釈尊が本当の仏であり、大聖人はそのお遣いに過ぎないと変えてしまったのです。これは日蓮宗（身延派）にちれんしゅう みのぶはと同じ考えです。

御書に「日蓮を用ひぬるともあしくうやまはゞ国亡ぶべし」くにほろ（平成新編御書1066頁）とあるように、現在の学会の教義は、国を滅ぼす大謗法です。

◆ 創価学会は本門戒壇の大御本尊への信仰を捨てました

日蓮正宗総本山第26世日寛上人は「弘安二年の本門戒壇の御本尊は、究竟くきやうの中の究竟、本懐の中の本懐なり」ほんがいの（御書文段197頁）と教えられています。学会でも創立以来、大石寺の大御本尊が、すべての御本尊みなもとの源と教えてきました。

池田大作第3代会長は「大御本尊なくば、この世界は暗黒である。そして地獄であるといっても過言かではない」ごん（池田会長講演集3巻90頁）とさえ指導しています。

ところが現在、学会は「本門の本尊は『弘安二年の御本尊』に限定されるものではなく…」（要綱150頁）と、大御本尊を源とする信仰を捨てました。池田氏の言葉を借りれば、学会は「暗黒」「地獄」となったのですから、貴方が求める正しい信仰と真実の幸福は、現在の学会ではけっして得られないのです。

不変であるべき教えを都合よく変えてきた
創価学会。

日蓮大聖人の信仰において大切な血脈に
背き、大御本尊への信仰を放棄し、ついに
「仏」に関する新教義を打ち出しました。

およそ仏教徒にとって根本と言えるものを
すべて変えてしまったのです。

現在も創価学会から脱会する人はあとを絶ちません。
大切な信仰にかかわる相談は ↓

和歌山県田辺市下万呂 4 7 7

日蓮正宗 宝相寺

連絡先 桐本 携帯 090-3656-1453

メール kirimoto3@msn.com

日蓮大聖人

【自分勝手に仏法を変えてはならない】

「涅槃經には、『法に依って人に依らざれ』とある。末法の学者は、仏法を習い極めたように勘違いし、（正像末における法華經の意義を誤って解釈したり、変えたりして）かえって仏法を滅ぼそうとしている。これは痛ましいことであり、悲しいことである」（趣意：平成新編御書1420㊦）

総本山 日寛上人 第26世

【日蓮大聖人こそ久遠元初のご本仏】

「久遠元初のご本仏は、どうして大聖人をおいて他におられようか。いや、日蓮大聖人こそ久遠元初の仏宝であられる」（趣意：六巻抄196㊦）

創価学会 歴代会長

●戸田城聖第2代会長

【大御本尊が根本であり、他の御本尊を拝んではダメ】

「弘安二年の十月十二日の大御本尊様の、ただ一幅なのです。（中略）それから、ほかの本尊、どこのを拝んでも絶対にだめなのです」（戸田城聖全集4巻350㊦）

●池田大作第3代会長

【戒壇の大御本尊が一切の根本】

「日蓮正宗総本山大石寺におわします本門戒壇の大御本尊が、一切の根本である」（広布と人生を語る第1巻112㊦）

【破門後も、大御本尊根本は変わらない】

「大御本尊が信心の根本であることは、これからも少しも変わらない」（聖教新聞 平成5年9月19日付）

勇氣ある決断を！

御書に「悪の中の大悪は我が身に其の苦をうくるのみならず、子と孫と末七代までもかゝり候ひけるなり」（平成新編御書1377㊦）とあるように、謗法の悪果は、その罪を知ると知らないとにかかわらず、あなたと、あなたの家族を、永遠に苦しめることになります。

一刻も早く日蓮正宗の寺院に来て、話を聞いてみてください。

私たちは、貴方が勇氣ある決断をくだせるよう願っています。